□読み終ったら読んでない人にあげてください。コピーもご自由に。

小栗上野介情報　48

２０１０(平成２２）年１１月

発行　東善寺　住職　村上泰賢
群馬県高崎市倉渕町権田（ごんだ）１６９
〒：370-3401　TEL&fax：027-378-2230
振替　00120-1-406206　東善寺
ホームページ http://tozenzi.cside.com/　　Eメール：sharmila@theia.ocn.ne.jp

遣米使節150周年記念・高崎市制110年記念事業

小栗上野介展

□12月4日(土)～14日(火)・高崎シティギャラリー(市役所隣)

幕末に新しい日本を夢見た男、小栗上野介の人物と業績を、数多くの資料を取り揃えて紹介します

○遣米使節の旅・・・小栗上野介が日本近代化の目を開いたアメリカでの見聞、何を見、何を体験したのか、そして南北戦争前のアメリカに日本ブームを巻き起こした遣米使節の歓迎ぶりなど、豊富な資料で展示します

○小栗上野介の生涯・・・神田駿河台に生まれ、遣米使節から帰国後、日本近代化に奔走した業績は「明治の近代化は小栗上野介の敷いたレールの上になされた」と言われ、「明治の父」(司馬遼太郎)ともいわれます。

オープニング行事　12月4日(土)午後1時～／コアホール(シティギャラリー内)　記念演奏・群馬マンドリン楽団／記念講演・「日本の心―近世から近代へ―」徳川恒孝氏(徳川記念財団理事長・第十八代宗家)

参加希望者は往復ハガキに(往信用)オープニング行事希望・〒・住所・氏名・TEL(返信用)表に自分の住所氏名を記入。送り先：370－3492高崎市倉渕町三ノ倉303　小栗上野介展実行委員会へ。ハガキ1枚で1名有効。定員(300名)になり次第締め切り。

◇横須賀市で　11月13日（土）

ヴェルニー・小栗祭

横須賀造船所建設の功労者として、建設計画を推進した日本側の人々を代表して小栗上野介、仏人技師たちを代表して首長ヴェルニーの功績をたたえ、ヴェルニー・小栗祭が、例年の会場ヴェルニー公園から芸術劇場のベイサイドポケットに変えて行なわれました。吉田雄人市長は挨拶で、小栗とヴェルニーの業績に加え、小栗道子夫人と娘が会津に逃れ会津の人々に保護された後、東京に戻って三野村利左衛門や大隈重信夫妻の庇護を受けたことにも触れました。フランス大使（代理）、外務大臣（代理）、ブレスト市の副市長らの祝辞があり、そのあとレセプションで参列者の懇親が深められました。小栗上野介顕彰会役員は、その後ヴェルニー公園の胸像に挨拶し、ヴェルニー記念館にも入って3ﾄﾝスチームハンマーなどの説明を受けた後、横須賀自然人文博物館の「19世紀の日本と亜米利加」展を見学。副使村垣がパナマで採取したホタルの標本が展示され、また横須賀造船所を生み出した

◀

◇サンフランシスコアジア美術館で小栗忠順を発表　11月6日（土）

▲遣米使節小栗忠順の業績を紹介する

サンフランシスコのアジア美術館で行われたシンポジウムで村上泰賢は遣米使節小栗忠順の日本近代化の業績を発表しました。サンフランシスコではほとんどの日系人が「遣米使節イコール咸臨丸一行」と誤解している現状を踏まえ、サンフランシスコまで随行して帰国した咸臨丸の実態を説明し、遣米使節小栗のアメリカでの活躍や、見聞体験を基にした帰国後の日本近代化の業績を発表。日本美術研究者の多い会でしたが、終了後「これまで聞いたことがない話」という感想や、日本から来た若い美術研究者から「今日聞いた話は少しも知らなかったので、恥ずかしい」との率直な声が聞かれました。

◀ 金門海峡を護っていた砲台跡は史跡になっている。（金門橋の真下）

□読み終ったら読んでない人にあげてください。コピーもご自由に。

遣米使節の旅をしのんで

▼小栗忠順も見学したワシントン海軍造船所のドック。石積みは横

ワシントン～ボルチモア～フィラデルフィア～

□遣米使節150周年を記念してニューヨーク市立博物館に東善寺から「ネジ釘」も出張展示されている「記念展」を見学し、さらに遣米使節の史跡や資料を調査する旅を8月末～9月に行いました。

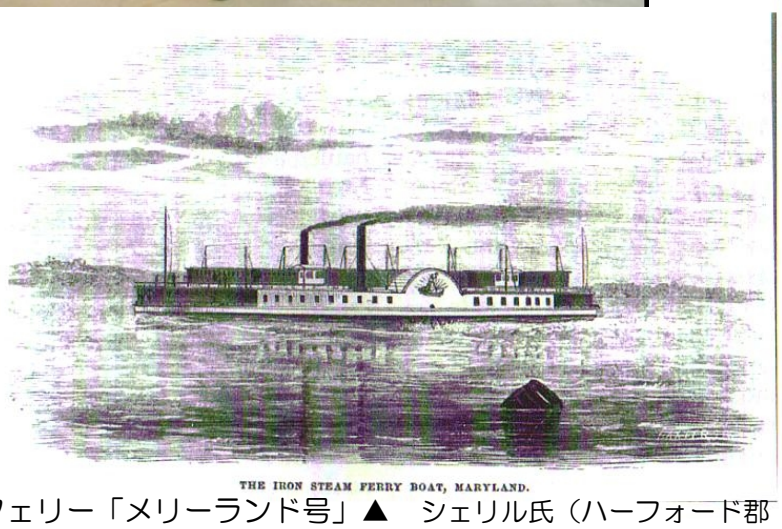
◀ 里帰りしたネジ釘がいい箱に収まって展示されていた

◀ 博物館の副館長とスタッフ、ＮＹ総領事館領事とともに

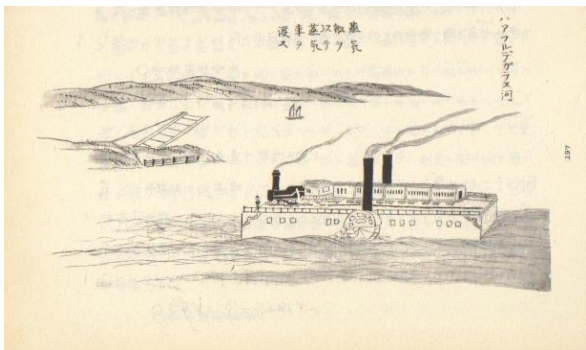
造船所の正門▲　遣米使節がワシントンでのパレードをスタートした正門が残っていた！

◀ ジョージ・ワシントンの家

１５０年前、遣米使節一行は、ロアノウク号から迎えの河船「フィラデルフィア号」に乗り換え、ポトマック川をさかのぼってワシントンへ向かう。その途中、マウントバーノンで船が止まって音楽を演奏し、ワシントンの墓所に黙とうして敬意を表している。　その景色を見たいと、家の川岸の船着場から４０分ツアーの船に乗り、ポトマック川を少しさかのぼって、１５０年前の小栗忠順らの気分を味わった。ここは首都ワシントンから南へ約１時間、ジョージ・ワシントンの博物館もあり、聖地の雰囲気でたくさんの観光客が訪ねていた。



フェリー「メリーランド号」▲　シェリル氏（ハーフォード郡歴史資料館学芸員）提供



■遣米使節一行は、ボルチモア～フィラデルフィアの途中で、汽車ごと船でサスケハナ河を運ばれ、たいへん驚きました。この時、小栗忠順の従者佐藤藤七、木村鉄太が日記にフェリーの絵を残しています。今回、船の画像を求めて川辺の街の資料館などを次々に訪ね回り、４人目のシェリル氏で「メリーランド号」とわかり、収集していた画像の提供を受けました。感激でした。

▲ 木村鉄太「航米記」の絵

木村鉄太の絵 ▲ は、フェリーが２本煙突で、桟橋を上げて待っている対岸の様子など、藤七よりも描写が正確で細かい。

本

12月中旬に刊行の予定！

住職村上泰賢の新著を平凡社で出版準備中です。

平凡社新書　予価:780円

「小栗上野介—忘れられた悲劇の幕臣」

◆内容：遣米使節の旅／横須賀造船所建設の発想の原点はワシントン海軍造船所の見学／ワシントン海軍造船所も横須賀造船所も「総合工場」／横須賀造船所は「本格的な蒸気機関を原動力とする日本最初の総合工場」「横須賀製鉄所では“製鉄”をしなかった」…など。